

高島秀吉／写真家

1969年生まれ

自動車撮影の先駆者、但馬治氏のアシスタントを経て、1994年独立。

1995-'96にかけて、欧州諸国および北アフリカに撮影旅行に出掛ける。

1995-'96-'97、自転車ロードレースのツールドフランスを観戦・撮影。

帰国後は東京を拠点に、多数なジャンルの被写体を撮影し、スタジオとロケの両面で活躍。

(モータースポーツのカタログ撮影、レース撮影、携帯電話のカタログ撮影、工芸陶芸品撮影など)

人物撮影では落語家、ドクター等専門色の強い業界や、

モータースポーツプロライダーのオフィシャル専属カメラマン、クルマのオーナーズインタビュー撮影など

雰囲気纏う人物撮影に定評がある。

“その場に流れる空気ごと写す写真”が十八番の高島が考える写真は

「形あるもの、形ないもの、その瞬間を捕える仕事。」

この世界で生まれてる美しいものを写すのが好きな写真家だ。

【近年の主な活動】

2006年、2012年、イギリス マン島TTレース撮影。

2003年から携わった陶芸雑誌の取材が縁で、

2013年に岡山県備前市に写真活動の拠点を移す。備前焼作家との交流。

2014-'16 南カリフォルニアに在住して、二輪メーカーのスタジオで公式写真撮影を行う。

2018年 アメリカ ボンネビルスピードウィーク撮影。

2019年6月から福岡県福岡市在住。

被写体の条件が「15歳の一年のみ」というポートレート写真館を準備中。

内在する可能性と魅力を写すライフワークを始動する。



日々鍛錬 Daily Training

Words by Yohel Ota / Musician

